



外箱

24 塩山蒔絵十種香道具のうち
外箱・香盆・香包・折居

江戸時代(十八世紀)
(外箱)二〇・五×二六・五 高二〇・六

外箱や香盆に、『古今和歌集』巻第七の賀歌「しほの山さしでのいそにすむ千鳥 きみがみよをばやちよとぞなく」(よみ人知らず)を表した十種香道具。香盤のみは他の道具からの転用であることが残念であるが、他は塩山の和歌に因んだ同一意匠によって調えられている。

箱類は、遠山、松、磯辺の岩、そして群遊ぶ千鳥と波を主体として、霞や遠山や岩の合間に桜、紅葉など数種類の樹木し、磯辺には水草を配している。波のうねりは変化に富み、千鳥の姿態の動きも様々である。また図様の中には、塩、山、磯、君、賀、御、世、八、千、代などの和歌を表す文字が表現されている。隅々にまで配された意匠は細部まで丁寧で、絵画的な図様を優れた技術によって見事に表現している。

香包は十種類で、名所香、矢数香、小鳥香、競馬香、宇治山香などが揃っている。また折居は、桜と紅葉各五包のもの一組と、菊花十包一組の二種類がある。それらの描写は一包ずつ、それぞれのモチーフの散らし方が異なる。さらに桜と紅葉による一組においては、海松に貝、水に糸車、菊花と桜や、紗綾形、石畳文、万字崩し、籠目、網目などの金泥による美しい装飾紙を用いている。

本道具に用いられている様々な意匠には、工芸品とはいえ、絵画性と装飾性が十分に発揮され、江戸時代中期の玩具道具の装飾に対する美意識が表れていると言えよう。



香盆



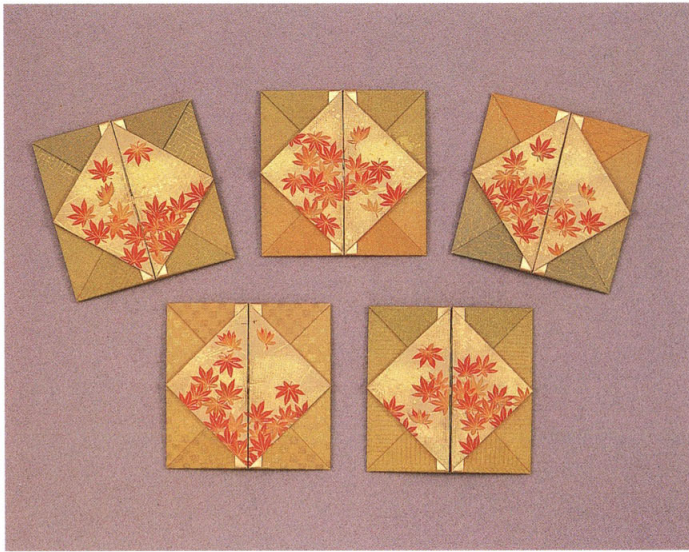
香包(総包)



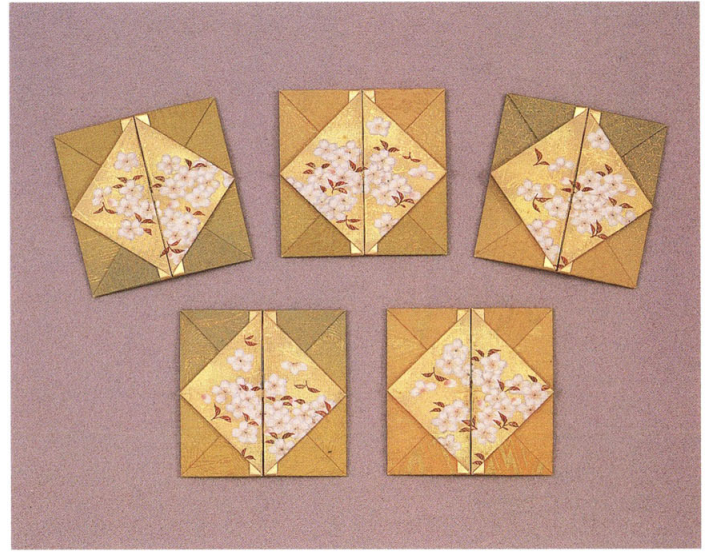
香包(総包)



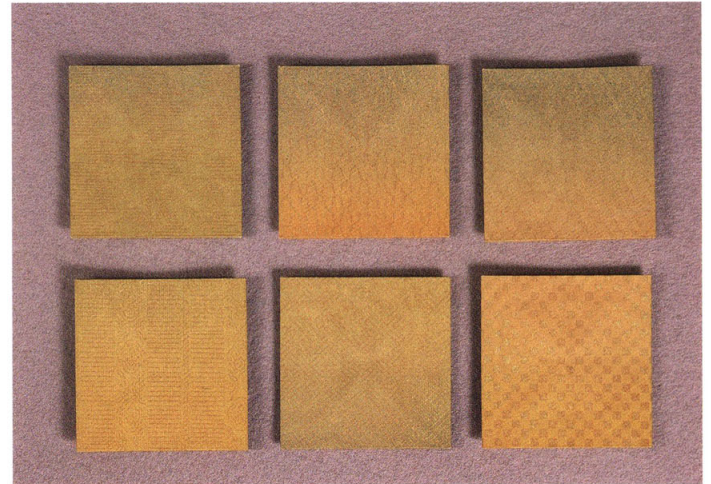
折居



折居



折居



同上裏面



同上裏面

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 — 絵画意匠の伝統と展開

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年三月二十六日発行

©2002. Museum of the Imperial Collections